

キャンパス / Campus	宇都宮キャンパス / UTSUNOMIYA		
科目名 / Course Title	比較文化2 / Comparative Culture 2		
担当責任者 / Instructor	小園 晃司		
開講期 / Semester/Term	後期 / AUTUMN		
履修年次 / Target Grade	1,2,3,4		
単位数 / Credits	2.0		
分野・必修選択別 / Category/Required or Elective	総合基礎科目, 基礎分野 選択, 選択 選択 / Elective		
科目ナンバー / Course Number	0000-0E112		
ディプロマポリシー、修得目標との関連 / Diploma Policy/Learning Outcome	要件所属 / Course Name	ディプロマポリシー、修得目標 / Diploma Policy/Learning Outcome	DP値 / DP Point
	経済学部地域経済学科	人文科学、社会科学、自然科学について幅広い関心と知識を有する。	1
		論理的・批判的思考、能動的な態度を有する。	1
		国際性を有し、異文化を理解し、尊重できる。	1
	理工学部	国際性を有し、異文化を理解し、尊重できる。	1
		論理的・批判的思考、能動的な態度を有する。	1
		人文科学、社会科学、自然科学について幅広い関心と知識を有する。	1
	経済学部地域経済学科	国際性を有し、異文化を理解し、尊重できる。	1
		論理的・批判的思考、能動的な態度を有する。	1
		人文科学、社会科学、自然科学について幅広い関心と知識を有する。	1
理工学部	学修目標1 国際性を有し、異文化を理解し、尊重できる。	1	
	学修目標2 論理的・批判的思考、能動的な態度を有する。	1	
	学修目標3 人文科学、社会科学、自然科学について幅広い関心と知識を有する。	1	
医療技術学部柔道整復学科	幅広い教養を通して柔道整復師の意義を理解できる	1	
授業の概要 / Course Description	<p>グローバル化が叫ばれて久しい昨今、とりわけインターネットの普及にともない、さまざまな事象についての情報が国境や言語を跨いで共有されています。しかし、未知の事象についての説明や画像、映像などに触れた際、私たちは時に自らの帰属する社会や文化の中で接してきた既存の“記憶やイメージ”によってこれをカテゴライズし、理解することがあります。こうして得られる理解は、当然のことながら、文化背景の相違により異なります。授業では、この問題を考えるために、一例として、世界情勢によって導かれた“天下の趨勢”、いわば 大勢 が近代日本においてかつてどのように理解され、それが当時の知識人にどのような思想的影響をもたらしたのかということについて、西欧科学思想や漢学の影響を踏まえて振り返ります。また、本講義の導入部の概論では、受講生各自の関心ある文化事象についての捉え方の手がかりとなるよう、比較文化研究のいくつかの方法論に触れます。そして、これらを通じて多角的な視野を培い、各専門分野における学びを深化させることが出来るようになることを目指します。この授業は「総合基礎科目」の学修目標1、2、3に関連します。この科目はJABEEプログラム対応科目です。</p>		
授業の到達目標 / Course Objectives	異文化間に存在する文化事象や概念を一面的ではなく、多面的に捉えることの重要性を認識し、講義内容を踏まえて行うグループワークを通じて、専門分野を学んだり社会生活を行ったりする上で有用な多角的視野を養うことが出来ます。		
成績評価の方法および基準 / Method of Evaluation	方法および基準 / Method of Evaluation	その他 / Others 50 %	
	レポート / Report(s) 50 %		
試験・課題に対するフィードバック方法 / Method of Feedback on Exams and Assignments	その他コメント / Comments	この授業では期末試験は行わず、期末レポート(50%)、授業への取り組み(50%)を総合して成績を評価します。	
	フィードバック方法 / Method of Feedback on Exams and Assignments	授業内で解説を行う / In-Class Feedback	
授業形態 / Course Style	講義 / Lecture		

この授業におけるアクティブ・ラーニングを実現するための教育手法 / Active Learning Method in Class	手法 / Active Learning Method in Class	グループワーク / Group Work
授業におけるICTの活用 / Use of ICT in Class	自主学習支援 (e-learning (LMS等) を活用) / Self-Study Support (Use of e-learning (LMS, etc.))	
事前事後学修の内容およびそれに必要な時間 / Study Required Outside of Class	<p>【事前学習として】 授業ではテキストを指定せず、必要に応じてプリントを配布しますが、各授業の内容を深めるために、事前に配布した資料に目を通しておいてください。(1時間程度。)</p> <p>【事後学習として】 授業で扱った内容に関連する興味対象について、授業後に引き続き調べてノートにまとめ、発表やレポート作成に役立ててください(30分以上)。また、「グループ発表」後、発表内容をまとめ(90分以上)、提出して頂きます。</p>	
教科書 / 参考資料 (図書・映像) / Textbooks and Reference Materials	特定のテキストは使用せず、必要に応じて授業内でプリントを配布します。	
その他履修上の注意点 / Notes	<p>○受講生の状況により授業計画を変更する場合があります。 ○5回以上の欠席の場合、不合格(無資格)となります。</p> <p>○情報電子工学科情報科学コースの学生においては、当該科目は「JABEE認定プログラム」の選択必修科目であり、「学習・教育到達目標」の1-1項目に対応しています。</p>	
実務経験のある教員による授業 / Instructor's Practical Experience		
その他外部資料等	リンク1 / Link1	
	リンク2 / Link2	
	リンク3 / Link3	
	その他コメント / Comments	

授業計画詳細 / Course schedule

曜日・時限・組 / Day・Period・Class	担当教官 / Details of the instructor	学習内容・行動目標 / Content of study・Goal to act	備考 / Notes
第1回	小園晃司	オリエンテーション 授業の内容と進め方の紹介。受講生の本授業における学修目標の設定。グループ分け作業	
第2回	小園晃司	総説「比較文化」とはどのような学問か	
第3回	小園晃司	概論「比較文化」 概念の訳出と近代語1 / 共通項をどう捉えるか	
第4回	小園晃司	概論「比較文化」 概念の訳出と近代語2 / 文化の優劣について考える	
第5回	小園晃司	概論「文化の再構成」 文化の継承と観光	
第6回	小園晃司	(第2～5回の内容に基づく) 関連資料の紹介、グループワークのテーマの確認	
第7回	小園晃司	グループ発表とディスカッション(前半)	
第8回	小園晃司	グループ発表とディスカッション(後半)	
第9回	小園晃司	比較文化の視点から考える1 異文化をどう捉えるか～記憶とイメージ	
第10回	小園晃司	比較文化の視点から考える2 翻訳と原典との間にあるもの	
第11回	小園晃司	近代日本の 大勢 観(近代日本の世界認識～「東西文明融合」の視点)1	
第12回	小園晃司	近代日本の 大勢 観(近代日本の世界認識～「東西文明融合」の視点)2	
第13回	小園晃司	近代日本の 大勢 観 J.W.Draper 『A History of the Intellectual Development』と近代日本の知識人	
第14回	小園晃司	近代日本の 大勢 観 進化思想の受容と東洋	
第15回	小園晃司	講義の総括と各自が設定した学修目標の達成度の振り返り/期末レポートの準備	